

今後目指す防災教育の内容

- ・ 全ての小学校、中学校の義務教育機関において、現実感のある地域の災害リスク、正常性バイアス等の知識を教え、校外でも一人でも逃げられるなど実践的な避難訓練を実施
- ・ 想定外（まさか）に気が付き、想定外への対応力を身に付ける防災教育、避難訓練
- ・ 命を守ることを最重視した実践的な避難訓練
- ・ 災害体験の想像を通じた災害の自分事化
- ・ 「いきる、かかわる、そなえる」
- ・ 主体的・内発的な避難意識を持って避難行動をとる姿勢を教える「助かる」防災教育（自分や大切な人の命について考える、愛他性、心配性バイアス）
- ・ 他人を思いやり「助ける」防災教育、避難訓練（大切な人の命について考える、愛他性、心配性バイアス）
- ・ 災害と共存して地域に住まう意識（住むための作法）を持つための郷土愛や地域への誇り
- ・ 非認知能力・生きる力（やり抜く力、主体性、自己肯定感、人間力など）の育み（防災を通じた教育）
- ・ 防災情報の取り扱い（「だいふく」誰が・いつ・複数の情報の確認）

教育方法（どのように）

- [現実感のある地域の災害リスク]
- ・ 体験談、映像、疑似体験
- [正常性バイアスや防災情報の取り扱い等の防災知識]
- ・ 子どもたちの共感を得るコミュニケーションを通じた知識の教授
- [避難訓練]
- ・ 定型化、形骸化しない訓練、下校時の訓練
- ・ 短い時間で実施可能な対応を繰り返し身に付ける地震防災訓練（ショート訓練）
- ・ 防災小説（頭の中での想像による訓練）
- [共同の学び]
- ・ 子ども同士で議論し、気付き合い、学び合うアクティブラーニングによる防災教育
- [愛他性、郷土愛]
- ・ 「愛他性」、「心配性バイアス」を活用し、子どもたちの心を揺さぶり（生きなきゃ、助けなきゃと思う）、子どもたちの共感を得るコミュニケーションを通じた教育
- ・ 地域の恵と災いの両面をセットで教える
- [効果的な教授、教員負担の軽減]
- ・ 教科横断的カリキュラム
- [防災教育のシームレス化]
- ・ 幼保、小、中学校における防災教育の指導内容を整理（学齢に応じて教えるべきことの標準化・体系化、防災教育内容のシームレス化）



これまでの議論を踏まえた防災教育を実現するための施策の方向性① (案)

◎学校の現場に受け入れやすい形（既存の教科の横断的活用、教育政策の方向性も踏まえるなど）で提言する

施策の方向性

【現状】

- ・学校保健安全法に基づく「学校安全」には、安全管理だけでなく、防災教育も含まれ、学校では防災教育も学校安全計画に位置付けて実施しているが、実際、全ての小・中学校の義務教育機関で行われている防災教育の内容については、明らかになっていない。

【今後】

- ・全ての小・中学校の義務教育機関において、必要な知識（地域の災害リスク、正常性バイアス等）を教え、避難訓練が実践的に行われるよう、学校や教員を支援する。
- ・「今後目指す防災教育の内容」について、学校ごとに計画を立て、適切な内容で実施されているかを調査し、実施状況を見える化する。

具体的な方向性

- 小・中学校で教える「今後目指す防災教育の内容」を教員が理解し、実践できるための手引き（防災教育を行うときの姿勢、教えるべき防災知識、定型化させないための避難訓練の工夫等について）を作成し、全国の義務教育機関へ展開。
- 教員が指導方法を理解するためのeラーニング・システムの利用（eラーニング教材作成）。
- 教員が指導方法について情報交換、相談等を行える機会（研修、会議（リアル/オンライン））の確保。
- 学校保健安全法に基づく「学校安全」には、安全管理だけでなく、防災教育を含む安全教育も含まれることから、学校安全計画に基づき、防災教育が適切な内容で行われる必要があるため、「今後目指す防災教育の内容」に関する実施状況（内容の確認も含む）について、全ての義務教育機関に対し、
 - ・定期的に実態を調査
 - ・実施状況、実施内容を公表し、地域による取組の濃淡を見える化
 を実施。



施策の方向性

【現状】

- ・ 教員の異動に関わらず学校が継続的に防災教育を行うため、継続的に地域防災を担える方が学校と連携して防災教育を行うことが重要。
- ・ コミュニティ・スクールや地域学校協働活動など学校と地域の連携・協働の仕組みは全国に広がりつつある。こうした仕組みを活用するなど、学校と地域が連携・協働して防災教育を行うことが重要。

【今後】

- ・ 地域と学校が連携して防災教育を（防災教育に対する地域の関わり（主体性）を高め、学校や教員の負担を軽減しながら）実施できるよう、地域と学校の間で両者を支援する人材を育成する。
- ・ 学校が、学校を挙げて継続的に防災教育に取り組む（特定の教員に依存しない、教員の異動に影響されない）ことができる環境を整備する。
- ・ 防災や教育に関する既存の施策や制度の活用も視野に、現場が受け止めやすい方法を検討する。

具体的な方向性

- 地域と学校の間に入り、継続的に地域防災の取組と防災教育を支援するコーディネーターを確保するため、地域学校協働活動推進員に対し、防災教育・避難訓練等に関する研修を実施。

※地域学校協働活動とは、学校と地域がパートナーとして連携・協働して行う様々な活動。

※コミュニティ・スクールとは、地域住民や保護者等が一定の権限を持って、学校運営やその運営に必要な支援を協議する学校運営協議会を設置した学校。

※地域学校協働活動推進員とは地域学校協働活動やコミュニティ・スクールへ参画し、地域と学校との情報共有や地域住民等への助言を行う者。

- 防災教育を支援するコーディネーター向けの活動手引きの作成。

※コーディネーターの役割の例

- ・ 地域の災害リスク、防災の基礎的知識、地域の防災の取組、地域の実情を踏まえた防災教育・避難訓練の指導心得、指導方法等を教員や生徒、住民に教授する。
- ・ 地域と学校が協働した防災教育・避難訓練などを調整する。

- 地域住民が地区防災計画を作成したり、計画を実施する際、住民と学校が連携し、大人と子どもが共同して防災学習会や避難訓練を実施すること等を推進。



これまでの議論を踏まえた防災教育を実現するための施策の方向性③ (案)

施策の方向性

【現状】

- ・大学の教職課程において、令和元年度から防災教育を含めた「学校安全への対応」に関する内容を必修としている。

【今後】

- ・大学の教員養成課程で、「今後目指す防災教育の内容」を実施できる教員の養成を目指し、大学や教職課程の学生を支援する。

【現状】

- ・学校安全資料や幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を踏まえ、防災教育・避難訓練を実施している。
- ・各発達段階に応じた教育を基盤とし、身の回りの危険から、周囲の方への配慮、地域の安全と、自助の視点から共助の視点へ発展的に資質・能力を身に付けることとしている。

【今後】

- ・未就学時から防災教育（先生や保護者の意識も高い）を効果的に実施できるよう、幼稚園・保育園・こども園の教員等を支援する。
- ・幼保、小、中学校における防災教育が具体的に連続して繋がった内容となるように整理し、シームレスの教育内容を分かりやすく説明する。
- ・防災教育の長期的、広域的な効果（非認知能力向上への寄与）についてエビデンスを収集する。

具体的な方向性

- 大学の教職課程で活用する教材を作成し、大学での活用を促進。
- 教職課程の学生向けのeラーニング・システムの利用（eラーニング教材作成）。

- 幼稚園、保育園、こども園で教える「今後目指す防災教育の内容」を教員が理解し、実践できるための手引きを作成し、展開。
- 学校安全資料等で説明されている防災教育に関する、幼保、小、中学校の連続性について、分かりやすい（具体的な指導内容、指導方法など）説明資料を作成し、配布。

- 「今後目指す防災教育の内容」が既に実践されている地域（釜石市や黒潮町等の防災教育に精力的に取り組む地域）の非認知能力の変化について、事例を調査。